

第5章 障がい者プランの点検・評価・見直し

1 関係機関での検証

障がい者プランの進捗管理につきましては、施策の実績や達成状況等について、札幌市障がい者施策推進審議会（旧札幌市障害者施策推進協議会）、札幌市社会福祉審議会、札幌市精神保健福祉審議会、札幌市地域自立支援協議会等の関係機関に報告し検証を行います。

2 市民意見の反映

施策の推進や事業の実施にあたりましては、出前講座や意見交換会などを通じて、市民のみなさまからお寄せいただく意見を参考にしながら、必要な施策の検討やサービスの質の向上を図っていきます。

3 計画の推進

市民のみなさまをはじめ、地域の関係団体や事業者のみなさま、関係機関等と協力して、計画の円滑な推進に努めます。

4 計画の見直し

市民のみなさまからお寄せいただく意見や、関係機関等での検証結果、さらに、国において進められている障がい者制度改革の動向等も踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。



第6章 障がい者プランの策定経過

1 策定体制

市役所内部での検討のほか、障がい当事者や家族の方、障がい者団体の方、福祉関係者、有識者等で構成する「札幌市の障がい福祉施策に係る計画策定会議」を設置し、さまざまなご意見を伺ってきました。

また、札幌市社会福祉審議会、札幌市障がい者施策推進審議会（旧札幌市障害者施策推進協議会）、札幌市精神保健福祉審議会、札幌市地域自立支援協議会等の関係機関からもご意見を伺ってきました。

※「札幌市の障がい福祉施策に係る計画策定会議」の委員名簿は115ページに掲載しております。

2 障がい児者実態等調査

計画の改定や障がい福祉施策の検討のための基礎資料等とすることを目的に、障がい児・者の生活や活動状況、障害福祉サービス等の利用状況などについてアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の結果については、別途、報告書としてまとめました。
実施期間：平成22年11月8日から11月30日

3 意見交換会・出前講座の開催

(1) 市内主要障がい者団体との意見交換

身体障がい、知的障がい及び精神障がい（発達障がいを含む）の主な団体と各1回（合計3回）、意見交換を行いました。

(2) 市民との意見交換

広く市民を対象として、地域生活支援・就労支援のテーマを中心に、地域の身近な課題などについて意見交換・情報共有を行うとともに、障がいのある人に対する理解促進を図りました。

(3) 地域の関係機関・団体への出前講座

地域自立支援協議会の各部会や関係団体等に対して、出前講座を通じて地域福祉に関する身近な課題などについて意見交換・情報共有を行うとともに、地域との連携体制の強化に努めました。

(参考 1) 会議等における検討の経過

平成 22 年	8 月	札幌市 障害者施策推進協議会 (改定の概要、実態調査実施概要等)
	10 月	札幌市精神保健福祉審議会・札幌市地域自立支援協議会 (改定の概要、実態調査実施概要等)
	11 月	障がい児者実態等調査 (アンケート調査)
	12 月	障がい福祉施策に係る計画策定会議 (改定の概要、改定スケジュール、計画の構成等)
平成 23 年	2 月	障がい者保健福祉部会作業委員会【庁内会議】 (改定の概要、改定スケジュール、計画の構成等) 市長・副市長との意見交換 (改定の概要)

3月 しょう ふうし しさく かか けいかくさくていかいぎ
障がい福祉施策に係る計画策定会議
けいかくこうせい しみん いけん ちょうしゅほうほう さぎょう
(計画構成、市民意見の聴取方法、作業スケジュール)
さっぽろ し しょうがいしゃ しさくすいしんきょう ぎかい さっぽろ し せいしん ほけん
札幌市 障害者施策推進協議会・札幌市精神保健
ふうし しん ぎかい さっぽろ し ちいき じりつ しえんきょう ぎかい
福祉審議会・札幌市地域自立支援協議会
けいかくこうせい しみん いけん ちょうしゅほうほう さぎょう
(計画構成、市民意見の聴取方法、作業スケジュール)

5月 しょう しゃ ほけんふうし ぶかい さぎょう いんかい ちょうないかいぎ
障がい者保健福祉部会作業委員会【庁内会議】
けいかくこっし あん かくにん
(計画骨子案の確認)

しょう ふうし しさく かか けいかくさくていかいぎ
障がい福祉施策に係る計画策定会議
けいかくこっし あん かくにん
(計画骨子案の確認)

7月 しょう しゃ ほけんふうし ぶかい さぎょう いんかい ちょうないかいぎ
障がい者保健福祉部会作業委員会【庁内会議】
けいかくかんれんしゅようとりくみ
(計画関連主要取組について)

しょう ふうし しさく かか けいかくさくていかいぎ
障がい福祉施策に係る計画策定会議
けいかくかんれんしゅようとりくみ
(計画関連主要取組について)

10月 しょう ふうし しさく かか けいかくさくていかいぎ
障がい福祉施策に係る計画策定会議
しょうがいふうし みこみりょう
(障害福祉サービスの見込量について)
さっぽろ し しょうがいしゃ しさくすいしんきょう ぎかい さっぽろ し ちいき じりつ
札幌市 障害者施策推進協議会・札幌市地域自立
しえんきょう ぎかい
支援協議会
しょうがいふうし みこみりょう
(障害福祉サービスの見込量について)

- 11 月 さつぽろ し しゃかいふく し しん ぎ かい
 札幌市社会福祉審議会
けいかくかいてい がいよう
 (計画改定の概要について)
しょう しゃ ほ けんふく し ぶ かい さ ぎょう い いんかい ちょうないかい ぎ
 障がい者保健福祉部会作業委員会【庁内会議】
けいかくあん けんとう
 (計画案の検討)
- 12 月 しょう しゃ ほ けんふく し ぶ かい き かくちょうせいかい ぎ し ちょうふく
 障がい者保健福祉部会、企画調整会議、市長副
し ちょうかい ぎ ちょうないかい ぎ
 市長会議【庁内会議】
けいかくあん けんとう
 (計画案の検討)
- へいせい ねん 24 年 1 月 けいかくあん こうひょう
 計画案の公表、パブリックコメント
しょう ふく し し さく かか けいかくさくていかい ぎ
 障がい福祉施策に係る計画策定会議
さつぽろ し せいしん ほ けんふく し しん ぎ かい
 札幌市精神保健福祉審議会
けいかくあん
 (計画案について)
- 2 月 さつぽろ し しょうがいしゃ し さくすいしんきょう ぎ かい
 札幌市障 害者施策推進 協 議会
さつぽろ し ちいき じりつ し えんきょう ぎ かい
 札幌市地域自立支援 協 議会
けいかくあん
 (計画案について)
- 3 月 けいかくこうひょう
 計画公 表

さんこう い けんこうかんかいとう おも
(参考 2) 意見交換会等 (主なもの)

◆札幌市地域自立支援協議会地域部会 (10 区) との出前講座 10 回
へいせい ねん がつ がつ じっし
平成 23 年 4 月から 9 月にかけて実施

◆札幌市地域自立支援協議会相談支援専門部会との出前講座 1 回
へいせい ねん がつ じっし
平成 23 年 6 月に実施

◆札幌市地域自立支援協議会就労支援推進部会との出前講座 1 回
へいせい ねん がつ じっし
平成 23 年 7 月に実施

◆市内主要障がい者団体との意見交換会 3 回
へいせい ねん がつ がつ じっし
平成 23 年 6 月から 9 月にかけて実施

◆市民との意見交換会 2 回
へいせい ねん がつ じっし
平成 23 年 9 月に実施

◆その他、関係団体等との出前講座 1 回
へいせい ねん がつ がつ じっし
平成 23 年 6 月から 9 月にかけて実施

さんこう (参考3) さっぽろし しょう ふうし しさく かか けいかくさくていかいぎ いんめいぼ
 札幌市の障がい福祉施策に係る計画策定会議 委員名簿

	しめい 氏名	しよぞくだんたいとう 所属団体等
1	○ あさ か ひろ ふみ 浅 香 博 文	さっぽろし しんたいしょうがいしやふうし きょうかいかいちょう 札幌市身体障害者福祉協会会長
2	うえ だ マリ子 上 田 マリ子	にほんはつたつしょうがい ほっかいどうかいかいちょう 日本発達障害ネットワーク北海道会長
3	さ がわ とし き 佐 川 俊 樹	さっぽろし し かくしょうがいしやふうし きょうかいり じ 札幌市視覚障害者福祉協会理事
4	さ とう よし お 佐 藤 義 夫	さっぽろし せいしんしょうがいしや か ぞくれんどうかいかいちょう 札幌市精神障害者家族連合会会長
5	しば き あつ こ 芝 木 厚 子	さっぽろ ち てきしょうがい し せつきょうかいかいちょう 札幌知的障害施設協会会長
6	ひろ おか ひろし 廣 岡 博	さっぽろし て いくせいいかいちょう 札幌市手をつなぐ育成会会長
7	ほそ かわ うしお 細 川 潮	さっぽろし せいしんしょうがいふくしゃ れんどうかいかいちょう 札幌市精神障害回復者クラブ連合会会長
8	◎ まつ かわ とし みち 松 川 敏 道	さっぽろがくいんだいがくじんぶんがく ぶ じゅんきょうじゅ 札幌学院大学人文学部准教授
9	まつ だ やす こ 松 田 靖 子	さっぽろ かい 札幌みんなの会
10	みず たに あまね 水 谷 周	そうだんしつ そうだん し えんせんもんいん 相談室あゆみ相談支援専門員
11	みや うち ひろ こ 宮 内 博 子	さっぽろちょうかくしょうがいしやきょうかいり じ 札幌聴覚障害者協会理事
12	もり ー や 森 一 也	さっぽろし い し かいり じ 札幌市医師会理事
13	やま うち まゆみ 山 内 まゆみ	さっぽろし たいふ じゆうふうし かいり じ ちょう 札幌肢体不自由福祉会理事 長

(50音順) ◎は議長、○は議長代理をそれぞれ表す。

4 パブリックコメントで寄せられた主な意見

計画案について、平成24年1月23日から2月21日までの間、パブリックコメントを実施し、市民の皆様からたくさんのご意見をいただきました。

(1) 意見提出者・件数

16人（団体を含む）、96件

(2) 寄せられた意見の概要と市の考え方

分野1：理解促進

【意見】札幌の人は、お年寄りや障がい者が困っていても、援助しない人が多く、街で声をかけても、無視する人、早足で逃げる人がいるのが現状です。公共サービス従事者を中心に大きな会社で働く人には、しっかりと障がい者に対する、理解と支援を啓蒙していただきたい。また、中・高生に対しても、しっかりと教育をして欲しい。

【考え方】障がい当事者を講師として養成・登録し、その講師の方を学校、企業等に派遣して、講義やディスカッション等を行うことで、障がいのある人に対する理解促進を図ります。また、各学校において、障がいのある方との交流や共同学習などの機会を通して、子どもたちが障がいのある方について正しく理解し、互いに助け合い、支え合う大切さを学ぶことができるよう、より一層努めてまいります。

分野2：生活支援

【意見】地域福祉を担う人材は、ボランティアに特化するのではなく地域の様々な人たちがそれぞれを支え合えば良いの

ではないか。

【**考え方**】^{かんが かつ}地域福祉^{ちいきふくし すいしん}を推進するにあたっては、幅広い^{はばひろ}市民^{しみん}や事業者^{じぎょうしゃ}、行政^{ぎょう}などが、互いの^{たが}価値観^{かちかん}を認め^{みと}合いながら^あ必要な^{ひつよう}役割^{やくわり}を担い、共に^{とも}支え^{ささ}合う^あ仕組み^{しく}づくりを進^{すす}めていくことが大切^{たいせつ}と考え^{かんが}ます。そのために、地域^{ちいき}のさまざま^{ひと}な人たちがそれぞれの^{とくせい}特性を活^いかしながら、お互い^{たが}に協力^{きょうりよく}し合う^あ体制^{たいせい}づくりを進^{すす}めてまいります。

【**意見**】^{い けん}障がいのある^{しょう}方が地域^{かた}から孤立^{ちいき}することのない^{こりつ}ように、「セーフティネット」強化^{きょうか}について、プラン^{なか}の中に盛り^も込んで欲^ほしい。

【**考え方**】^{かんが かつ}障がいのある^{しょう}方が地域^{かた}で安心^{ちいき}して生活^{せいかつ}していくことができるよう、さまざま^{さまざま}な取組^{とりくみ}を行^{おこな}ってまいります。そのためには、地域^{ちいき}における見守り^{みまも}・支援^{しえん}体制^{たいせい}を充^{じゅうじつ}実^{じゅうよう}していくことが重要^{じゅうよう}でありますので、分野^{ぶんや}2：生活^{せいかつ}支援^{しえん}の基本^{きほん}施策^{しざく}の内容^{ないよう}の記載^{きさい}を、「〇個々の^{ここ}ニーズ^{たいおう}に対応^{おう}し、ライフ^{いっかん}ステージ^しに応^しじた一貫^しした支^し援^{えん}ができるよう、相談^{そうだん}支援^{しえん}体制^{たいせい}や関係^{かんけい}機^き関^{かん}との連携^{れんけい}の充^{じゅうじつ}実^{じゅうじつ}を

はか^{はか}図^とるほか、ボランテ^ちィア^い等^{とう}の地域^{ちいき}福祉^{ふくし}力^{りよく}を活^{かつ}用^{よう}するなど、地^ち域^いにおける見守り^{みまも}・支援^{しえん}体制^{たいせい}の充^{じゅうじつ}実^{じゅうじつ}に努^{つと}めます。」と修正^{しゅうせい}いたしました。

【**意見**】^{い けん}重度^{じゅうど}障^{しょう}害^{がい}や医療^{いりょうてき}的^{てき}ケア^{けあ}の必要^{ひつよう}な人^{ひと}に対する^{たい}支^し援^{えん}については、障^{しょう}害^{がい}者^{しゃ}本人^{ほんにん}を支^し援^{えん}するということに固執^{こしつ}せず、介助^{かいじょ}者^{しゃ}のかかえて^{かか}いるケア^{けあ}や用事^{ようじ}のなかから、人^{ひと}に頼^{たの}みやすいこと^{こと}をかたがわり^{かたがわり}して、主^{しゅ}たる介^{かい}護^ご者^{しゃ}の負^ふ担^{たん}を減^へらすということ^{こと}を考^{かんが}えた方が、合理^{ごうりてき}的で安^{やす}上^あがりだと思^{おも}います。

【**考え方**】^{かんが かつ}いただいた^{いけん}ご意見^{ごんご}は、今後^{じぎょう}の事業^{すす}を進^{すす}めるうえでの

参考とさせていただきます。また、法定サービスについては、制度上、対象となる方やサービスの範囲などに一定の制約があることから、障がいのある方やご家族の希望に柔軟に対応できるような、地域における有償ボランティアの仕組みの整備についても、今後検討を進めていきたいと考えております。

分野3：保健・医療

【意見】早期療育の充実について、障がいのある子もない子も同じ場で様々な支援が受けられるような対応を求めたい。

【考え方】現状においても、知的障がい児通園施設や肢体不自由児通園施設での療育の場では、お子さんの状況に応じて、同じ場での障がいのあるお子さんと障がいのないお子さんとの交流を行っておりますが、その内容や回数などについては、今後検証してまいりたいと考えております。なお、保育園では、障がいのあるお子さんが、保育に欠け、集団保育が可能な場合について、障がいのないお子さんと同じ場での保育を行っております。

【意見】障がい特性による老化の違いやその原因、老化による二次障がいの実態、老化進行を抑える対策等、知的障がい者の老化対策を保健・医療の視点からも取組んで欲しい。

【考え方】成人期における知的障がい者の加齢に伴う諸機能の変化としては、さまざまな研究の中で、障がいのない方よりも早期に老化傾向がみられるとの指摘があることは承知をしております。しかしこの老化に関して保健・医療の視点からの対策につきましては、自治体単独で取り組むことはなかなか困難で

あると考えますので、今後、国等の研究の成果を踏まえたく
えで取り組むべき課題だと考えます。

分野4：生活環境

【意見】災害時等の安全対策の推進について、要援護者情報を常時更
新し、必要な時に提供できるよう日ごろから準備して欲しい。

【考え方】大きな災害が発生した直後など一刻を争う場合には、行政に
よる支援が間に合わないことは、過去の事例より明らかであ
り、隣近所をはじめとした地域の主体的な対応が最も重要と
考えていることから、地域が、手上げ、同意方式により要援
護者のリストを整備し、要援護者と支援者とのマッチングを
する事業の普及啓発に取り組んでおります。この中で、日ご
ろから、地域が要援護者のリストを整備・更新する体制づく
りを構築できるよう併せて支援を進めてまいります。

分野5：教育・育成

【意見】地域ですみやすい環境づくりのため、インクルーシブ教育を
進め、小さなうちから障がい者がそばにいて当たり前環境
をつくるとともに、福祉・教育が真剣に手を取り合ってプラ
ンを進めて欲しい。

【考え方】障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶことは、
お互いを理解し共に支え合って生きていくことの大切さを学
ぶなど、大変意義深いものと考えております。このため、国
においてもインクルーシブ教育システムの理念を踏まえた特
別支援教育の推進について中央教育審議会での審
議を進めているところであり、本市においても、国

の動向に注視すると共に、福祉や医療など関係機関と連携しながら、特別支援教育を推進してまいりたいと考えております。

【意見】市立高等養護学校における教育の充実について、就労促進を図るための取組のほかに、福祉的就労につなげるための支援も入れるべきである。

【考え方】いただいたご意見を踏まえ、分野5：教育・育成の基本施策3の重点取組、市立高等養護学校における教育の充実について、「社会的自立を目指した教育の充実に努めるとともに、」の記載を追加いたしました。

分野6：雇用・就労

【意見】親からの自立を目指すためには、福祉就労では金銭的に無理があるため、少しでも多くの障がい者に就労のチャンスを与えて下さい。

【考え方】札幌市では、障がいのある方もない方も、ともに働き続けることができるよう、「障がい者協働事業」を進めております。今後につきましても、この事業の充実を図ってまいります。障がいのある方が多くの事業主と面接できる機会を提供するため、国と連携し、年2回「障害者就職面接会」を開催しております。今後も国等との連携により、面接会の継続を含め、障がい者雇用に対する企業への啓発を行ってまいります。

分野7：情報・コミュニケーション

【意見】 情報バリアフリー化の推進については、障がい特性に応じた配慮に関して、知的障がい者については「漢字にルビをふる」「できるだけ平易な表現を心がける」ことに加え、専門用語等の難しい言葉について、わかりやすい解説をつける配慮もお願いいたします。

【考え方】 障がい福祉に関するパンフレットやガイドブックなどは、わかりやすい表現に心がけ、漢字へのルビ、専門用語等への注釈、二次元コードを付けるなど、読みやすくする工夫に努めます。

分野8：スポーツ・文化

【意見】 札幌市や教育委員会などの公的なスポーツ教室にも障がい児・者を対象とする枠がほとんどありません。まずは、札幌市などの主催するスポーツ教室に重度でなければ障がい児・者を受け入れることを始めてほしい。

【考え方】 体育館や温水プールなどで指定管理者が行っているスポーツ教室につきましては、障がいの程度にもよりますが、障がい児・者も受け入れております。また、学校開放事業の一環として、市内20校の小学校で実施している「少年少女水泳教室」では、軽度の知的障がい児を各校1名程度、受け入れることができます。

身体障害者福祉センターでは、当センターの指定管理業務の一環として、市内に居住する身体障害者手帳をお持ちの18歳以上の方を対象に、スポーツを通じて機能回復訓練や健康・体力増進を図り社会参加を促進する目

的で、各種スポーツ教室（卓球・アーチェリー・水泳）を開催しております。

しょう ふくし けいかく 障がい福祉計画

【意見】 グループホーム等の充実とあるが、多様な暮らし方があるので市の方針としてグループホームを前提としているように感じる。この書き方であれば選択権を奪うことにもつながりかねないので、「希望する場で施設入所・入院から地域生活への移行を推進」として下さい。

【考え方】 この文言は、国で定める計画の基本指針に基づき記載したものであり、施設入所、入院から地域生活への移行推進の取組における住まいの場は、必ずしもグループホームを前提にしているものではありません。いただいたご意見は今後の事業を進めるうえで参考とさせていただきます。

【意見】 福祉施設から一般就労への移行等を推進について、一般就労ができないと地域生活をしてはいけないというように読み取れます。まず地域移行してからどういう生活をしたいか考えて、必要に応じて就労を目指すべきではないか。

【考え方】 この文言は、国で定める計画の基本指針に基づき記載したものであり、一般就労することを地域生活の前提条件とするものではありません。いただいたご意見は今後の事業を進めるうえで参考とさせていただきます。

【意見】 地域活動支援センター機能強化事業について、なぜ減少傾向にあるのか説明書きを書く必要があるのではない

か。

【考え方】既存の地域活動支援センターが障害福祉サービス事業所に移行するものがあり、箇所数・利用者人数は減少傾向になると見込まれるためです。この旨を計画に記載することといたします。

5 その他、計画案からの修正点

障がい福祉計画の部について、国の策定指針等を踏まえ、数値目標・サービス見込量について一部修正いたしました。

数値目標

・入院中の精神障がい者の地域生活への移行に関する数値目標を追加。

・入所施設入所者数の減少見込数を450人から420人に修正。

サービス見込量

・施設入所支援のサービス見込量の利用人数について、数値目標「入所施設入所者数の減少見込数」の修正に伴い、平成25年度を2,150人に、平成26年度を2,100人にそれぞれ修正。

・共同生活介護・共同生活援助（グループホーム等）のサービス見込量の利用人数について、数値目標「入所施設入所者数の減少見込数」の修正に伴い、平成25年度を2,220人に、平成26年度を2,500人にそれぞれ修正。

・共同生活介護・共同生活援助（グループホーム等）のサービス見込量の定員数について、数値目標「入所施設入所者数の減少見込数」の修正に伴い、平成25年度を2,330人に、平成26年度を2,630人にそれぞれ修正。

- し せつにゆうしょ し えん
み こみりょう り ようにんずう
すう ち もくひょう
 ・ 施設 入 所 支援 の サービス 見 込 量 の 利 用 人 数 に つ い て、 数 値 目 標
にゆうしょ し せつにゆうしょしやすう
げんしょう み こみすう
しゅうせい ともな
へいせい
ねん ど
 「入所施設 入 所者数の減少 見込数」の修正に伴い、平成 25 年度
にん
へいせい
ねん ど
にん
しゅうせい
 を 2,150 人 に、平成 26 年度を 2,100 人 にそれぞれ修正。
- ち いきそうだん し えん
かか
ち いき い こう し えん
み こみりょう り ようにんずう
 ・ 地域相談支援に係る地域移行支援のサービス見込量の利用人数につ
へいせい
ねん ど
へいせい
ねん ど
にん
しゅうせい
 いて、平成 24 年度から平成 26 年度をそれぞれ 80 人 に修正。
- ち いきそうだん し えん
かか
ち いきていちゃく し えん
み こみりょう り ようにんずう
 ・ 地域相談支援に係る地域定 着 支援のサービス見込量の利用人数に
へいせい
ねん ど
へいせい
ねん ど
にん
しゅうせい
 ついて、平成 24 年度から平成 26 年度をそれぞれ 15 人 に修正。
- そうだん し えん じ ぎょう
み こみりょう
き かんそうだん し えん
せつ
 ・ 相談支援事業のサービス見込量のうち、基幹相談支援センターの設
ち
う む
き さい
ついか
 置の有無についての記載を追加。
- せいねんこうけんせい ど り よう し えん じ ぎょう
み こみりょう
どう じ ぎょう り
 ・ 成年後見制度利用支援事業のサービス見込量について、同事業の利
ようにんずう
き さい
ついか
 用人数の記載を追加。
- ほう し いんようせいけんしゅう じ ぎょう
み こみりょう
てんやくほう し いんようせい じ
 ・ 奉仕員養成研 修 事業のサービス見込量のうち、点訳奉仕員養成事
ぎょうおよ
ろうどくほう し いんようせい じ ぎょう
じゅこうにんずう
き さい
ついか
 業 及び朗読奉仕員養成事業の受講人数の記載を追加。

第7章 資料編

1 障がい者(児)数

(1) 身体障がい・知的障がい (人、%)

区	人口	身体障がい児・者		知的障がい児・者	
		手帳所持者数	対人口比	手帳所持者数	対人口比
中央	221,344	8,646	3.9	955	0.4
北	279,029	12,090	4.3	1,872	0.7
東	255,672	11,524	4.5	1,911	0.7
白石	204,749	9,225	4.5	1,580	0.8
厚別	128,628	6,198	4.8	962	0.7
豊平	212,579	8,758	4.1	1,323	0.6
清田	116,764	4,423	3.8	713	0.6
南	145,480	7,437	5.1	1,077	0.7
西	211,286	9,113	4.3	1,560	0.7
手稲	140,011	6,326	4.5	984	0.7
総数	1,915,542	83,740	4.4	12,937	0.7

※ 人口：平成23年4月1日現在

※ その他：平成22年度末現在

(2) 精神障がい

(人、%)

区	人口	てちょうしょじしゃすう 手帳所持者数	たいじんこうひ 対人口比	じりつしえんいりょう 自立支援医療 じゆきゆうしゃすう 受給者数	たいじんこうひ 対人口比
ちゅうおう 中央	221,344	1,859	0.8	4,555	2.1
きた 北	279,029	2,418	0.9	6,423	2.3
ひがし 東	255,672	2,184	0.9	6,140	2.4
しろいし 白石	204,749	2,001	1.0	5,270	2.6
あつべつ 厚別	128,628	1,088	0.8	2,780	2.2
とよひら 豊平	212,579	1,694	0.8	4,501	2.1
きよた 清田	116,764	675	0.6	1,902	1.6
みなみ 南	145,480	1,253	0.9	3,116	2.1
にし 西	211,286	1,882	0.9	5,504	2.6
ていね 手稲	140,011	1,072	0.8	3,182	2.3
そうすう 総数	1,915,542	16,126	0.8	43,373	2.3

※ 人口：平成 23 年 4 月 1 日現在

※ その他：平成 22 年度末現在

(3) 身体障がい・障がい等級別

(人、%)

とうきゅう 等級	H20		H21		H22	
	にんずう 人数	こうせいひ 構成比	にんずう 人数	こうせいひ 構成比	にんずう 人数	こうせいひ 構成比
1級	28,574	35.7	29,344	35.7	29,801	35.6
2級	15,087	18.9	15,113	18.4	15,087	18.0
3級	11,585	14.5	11,949	14.5	12,249	14.6
4級	16,026	20.0	16,975	20.7	17,870	21.3
5級	4,712	5.9	4,760	5.8	4,775	5.7
6級	3,995	5.0	3,996	4.9	3,958	4.7
ごうけい 合計	79,979	100.0	82,137	100.0	83,740	100.0

※ 各年度末現在数

(4) 身体障がい・障がい区分別

(人)

障がい区分	H20	H21	H22
視覚障がい	4,757	4,754	4,744
聴覚・平衡機能障がい	5,681	5,671	5,648
聴覚	5,625	5,612	5,582
平衡機能	56	59	66
音声・言語・そしゃく機能障がい	889	892	888
肢体不自由	46,308	47,741	48,695
上肢	17,349	17,570	17,512
下肢	22,778	23,910	24,964
体幹	6,181	6,261	6,219
乳幼児期以前の非進行性の 脳病変による運動機能障がい	335	338	344
上肢機能	189	190	194
移動機能	146	148	150
内部障がい	22,009	22,741	23,421
心臓機能	12,160	12,582	12,935
じん臓機能	5,187	5,341	5,511
呼吸器機能	1,914	1,918	1,873
ぼうこう・直腸機能	2,524	2,652	2,757
小腸機能	128	134	134
免疫機能	96	114	126
肝臓機能	0	0	85
合計	79,979	82,137	83,740

※ 各年度末現在数

りょういく て ちょうしょ じ しゃすう
 (5) 療育手帳所持者数

(人、%)

とうきゅう 等級	H20		H21		H22	
	にんずう 人数	こうせいひ 構成比	にんずう 人数	こうせいひ 構成比	にんずう 人数	こうせいひ 構成比
A (じゅうど 重度)	4,758	42.2	4,913	40.6	5,143	39.8
B (ちゅうど 中度)	3,192	28.3	3,305	27.3	3,308	25.6
ー (けいど 軽度)	3,337	29.6	3,872	32.0	4,486	34.7
ごうけい 合計	11,287	100.0	12,090	100.0	12,937	100.0

かくねん ど まつげんざいすう
 ※ 各年度末現在数

せいしんしょう しゃ て ちょうしょ じ しゃすう
 (6) 精神障がい者手帳所持者数

(人、%)

とうきゅう 等級	H20		H21		H22	
	にんずう 人数	こうせいひ 構成比	にんずう 人数	こうせいひ 構成比	にんずう 人数	こうせいひ 構成比
1 級 (きゅう)	942	7.1	980	6.7	1,053	6.5
2 級 (きゅう)	7,921	59.4	8,543	58.3	9,301	57.7
3 級 (きゅう)	4,469	33.5	5,135	35.0	5,772	35.8
ごうけい 合計	13,332	100.0	14,658	100.0	16,126	100.0

かくねん ど まつげんざいすう
 ※ 各年度末現在数

(7) 自立支援医療（精神通院医療）受給者数 (人)

	H20	H21	H22
受給者数	35,241	39,155	43,373

※ 各年度末現在数

2 事業所数

(1) 居住系サービス

	H21	H22	H23
居宅介護	320	345	356
重度訪問介護	322	346	352
重度障害者等包括支援	1	1	1
行動援護	39	41	50
(参考) 移動支援	271	292	312

※ 各年4月1日現在数

(2) 日中活動系サービス

		H21	H22	H23
療養介護	事業所数	0	0	0
	定員	0	0	0
生活介護	事業所数	43	55	69
	定員	1,035	1,469	2,086
自立訓練 (機能訓練)	事業所数	0	0	0
	定員	0	0	0
自立訓練 (生活訓練)	事業所数	11	12	15
	定員	122	128	165
就労移行支援	事業所数	28	32	29
	定員	313	369	356
就労継続支援 (A型)	事業所数	15	21	33
	定員	273	354	689
就労継続支援 (B型)	事業所数	63	90	97
	定員	1,280	1,769	1,949
短期入所	事業所数	44	47	48
	定員	170+	180+	179+
(参考) 日中一時支援	事業所数	50	51	64
	定員	386	366	510
(参考) 地域活動支援センター	事業所数	74	72	68
	定員	1,265	1,212	1,188

※ 各年4月1日現在数。短期入所の定員の「+」は、空床対応の事業所を指す(定員の定めなし。)

(3) ^{きよじゅうけい} 居住系サービス

		H21	H22	H23
^{きょうどうせいかつえんじょ} 共同生活援助	^{じぎょうしょすう} 事業所数	222	250	299
^{きょうどうせいかつかいご} 共同生活介護	^{ていいん} 定員	1,119	1,257	1,557
^{しせつにゆうしょしえん} 施設入所支援	^{じぎょうしょすう} 事業所数	57	50	28
^{きゅうほうにゆうしょ} 旧法入所	^{ていいん} 定員	2,251	1,945	1,326

※ ^{かくねん} 各年 ^{がつ} 4月 ^{にちげんざいすう} 1日現在数

3 旧計画の進捗状況（主なもの）

平成 22 年度における実績を中心に、分野ごとに整理しております。

分野 1 理解促進

◆ 広報誌、広報番組、ホームページなどを通じた広報

平成 22 年度に新たなホームページ運用システムを導入し、公式ホームページのリニューアルを実施。ホームページ全体の使い勝手やアクセシビリティ対応の向上を図っております。

◆ ボランティア研修センター運営

〈福祉教育〉

- ・ 社会福祉協力指定校 339 校
- ・ 小学校 5・6 年生向け福祉教育副読本 15,000 部配布
- ・ 教員向け福祉体験アイデア集 10,000 部作成

〈研修の実施〉

- ・ 福祉事業従事者研修受講者数 200 人

〈ボランティア活動支援〉

- ・ ボランティア登録者数 43,955 人

◆ 福祉サービス提供事業者に対する研修の実施

居宅介護事業所のサービス提供責任者等を対象に、個別支援計画の作成に係る研修を実施しております。

- ・ 個別支援計画事業者研修会（基礎）・・・5 回
- ・ 個別支援計画事業者研修会（応用）・・・1 回

◆北海道障がい者条例の普及

障がいのある方の権利擁護や障がいがあることを理由に差別、虐待を受けることのない暮らしやすい地域づくりを目的とする「北海道障がい者条例」が平成22年4月から全面施行されました。

分野2 生活支援

◆重度の障がいのある方に対する支援（パーソナルアシスタンス事業）

重度身体障がい者の地域生活の支援のため、有償ボランティア等の地域の福祉力を活用した仕組みを取り入れた札幌市独自の介助制度として、平成22年度から実施しています。

〈平成23年3月現在〉

- ・延べ利用者数 30名
- ・登録介助者数 205名

◆障がい者交通費助成制度

助成制度の見直しを1年以上重ねて議論を行い、平成22年度から新制度を実施しています。

〈変更点〉

- ・障がい種別による助成内容の格差の改善を図りました。
- ・利便性の向上を図りました。

◆発達障害者支援体制整備事業

関係機関や職種間における情報提供及び意見交換を行うことによ

か だい もんだいてん たいおうさくとう きょうゆう か さくひんてん じっ し ぶ きゅうけいはつようさつ
 る課題や問題点、対応策等の共有化、作品展の実施や普及啓発用冊
 し さくせい つう し みにたいしょう はったつしょう り かいそくしん とりくみ
 子の作成などを通じた市民対象とした発達障がいの理解促進の取組を
 すいしん
 推進しています。

◆札幌市 住宅マスタープラン 2011 の策定

こうれいしゃ しょう しゃとう じゅうたくかく ほ ようはいりよしゃ たい きよじゅう あんていかく ほ
 高齢者や障がい者等の住宅確保要配慮者に対する居住の安定確保の
 とりくみ さだ じゅうたく へいせい ねん ど さくてい
 取組などについて定めた住宅マスタープランを平成 23 年度に策定
 し、取組を進めています。

ぶん や ほ けん い りょう
 分野 3 保健・医療

◆乳 幼児健康診査

げつ じ けんしん
 ・ 4 か月児健診

じゅしんしゃすう じつにんずう 14,849 人 の にんずう 15,193 人
 受診者数 実人数

さい げつ じ けんしん
 ・ 1 歳 6 か月児健診

じゅしんしゃすう じつにんずう 14,016 人 の にんずう 14,107 人
 受診者数 実人数

さい じ けんしん
 ・ 3 歳児健診

じゅしんしゃすう じつにんずう 13,542 人 の にんずう 13,646 人
 受診者数 実人数

◆自立支援医療

こうせい い りょう きゅう ふ けんすう 29,996 けん
 ・ 更生医療 給付件数

せいしんつういん い りょう きゅう ふ けんすう 545,897 けん
 ・ 精神通院医療 給付件数

ぶん や せい かつ かん きょう
 分野 4 生活環境

◆優しさと思いやりのバリアフリーの推進

へいせい ねん ど こうきょう し せつ
 平成 22 年度から「公共施設のバリアフリーチェックシ

システム」及び「危険施設等通報システム」の運用を開始しています。

◆新・札幌市バリアフリー基本構想

全ての人々が安心して暮らし、分け隔て無く社会活動に参加できるまちづくりを目指し、総合的かつ一体的なバリアフリー化をさらに促進するために、「新・札幌市バリアフリー基本構想」を平成21年度に策定し、取組を進めています。

◆交通局における安全対策

平成20年度までに、地下鉄東西線全駅に可動式ホーム柵を設置しました。

◆冬のみちづくりプランの推進

ゆたかな冬の暮らしを実現するため、市民・企業等との協働の推進、多様なソフト施策の導入、施策の選択と集中によるメリハリをつけた事業の展開を基本方針として雪対策を推進するため、冬のみちづくりプランを平成21年度に策定し、取組を進めています。

〈取組の例〉

- ・凍結防止剤等の散布：車道693km、歩道252km
- ・砂箱の設置：車道用2,210基、歩道用870基
- ・砂入りペットボトルの作成・配置：241箇所

◆災害時要援護者避難支援対策

「災害時要援護者避難支援ガイドライン」及び「災害時支えあいハ

ンドブック」を平成19年度に策定しました。

平成20年度から3年間にわたり、災害時要援護者避難の仕組み作りに関する普及啓発活動として出前講座を行うとともに、行政の積極的な支援による先進事例を創出するため、モデル地区を選定し事業を進めてきました。

- ・モデル事業実施地区数 4地区 (4区)

分野5 教育・育成

◆一人一人が学び育つための教育的支援の充実

とくべつ し えん きょういく し えん いん まな かつよう じ ぎょう
・特別支援教育支援員 (学びのサポーター) 活用事業

かつようこうすう しょうがっこう こう ちゅうがっこう こう
活用校数 小学校 195校、中学校 33校

まな て ちょうはい ぷ
・学びの手帳配布

きょういく きょういく そうだん やく さつはい ぷ
教育センターの教育相談で約 1,200冊配布

◆放課後児童クラブ等における障がい児の受入れ

じ どう かい かん およ じ どう かい かん じ ゅん かい そう だん いん てい き てき じ ゅん かい そう
児童会館及びミニ児童会館では、巡回相談員による定期的な巡回相
だん どう し えん し えん けん どう かい ぎ じ っ し へい せ い ねん ど りん じ し ゃ く
談等支援や支援検討会議の実施のほか、平成22年度から、臨時職
いん か はい およ たい せい き ょ う か たい し ょ う かん じ どう
員の加配及びフレックススタッフによる体制強化の対象館を、児童
クラブのみならず直接来館での障がい児受入れ館も含むこととしてお
ります。

◆地域で学び育つための教育環境の整備

とくべつ きょういく てき し えん ひつよう じ どう せい と きょじゅう み じ か ち い き
特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、居住する身近な地域の
がっこう まな そだ とくべつ し えん が っ き ょ う どう せい
学校で学び育つことができるように、特別支援学級等の整
び おこな
備を行っています。

- ・ 特別支援学級整備校数 とくべつし えんがつきゅうせい び こうすう 小学校 26 校、中学校 8 校 しょうがっこう こう ちゅうがっこう こう
- ・ 通級指導教室整備校数 つうきゅう し どうきょうしつせい び こうすう 小学校 2 校 しょうがっこう こう

分野 6 雇用・就労 ぶん や こよう しゅうろう

◆ 障がい者協働事業 しょう しゃきょうどう じぎょう

- ・ 補助対象事業所 10 カ所 ほ じょたいしょう じぎょうしょ しょ
- ・ 障がい者雇用数 62 名 しょう しゃ こようすう めい

◆ 製品の販路拡大支援 せいひん はんろ かくだい し えん

障がいのある方が施設等で作った製品を販売する常設店舗として しょう かの し せつとう せいひん はんぱい じょうせつてん ぽ
 元気ショップを平成 18 年度に開設し、平成 22 年度には店舗面積拡 げん き へいせい ねん ど かいせつ へいせい ねん ど てん ぽ めんせきかく
 充などリニューアルしました。 じゅう

- ・ 元気ショップ売上実績：39,654 千円 げん き うりあげじっせき せんえん
- ・ 来客数：60,683 人 らいきゃくすう にん

分野 7 情報・コミュニケーション ぶん や じょうほう

◆ 障害福祉サービス事業所等に関する空き情報の紹介 しょうがいふくし じぎょうしょとう かん あ じょうほう しょうかい

平成 22 年度に、指定障害福祉サービス事業所や移動支援事業所 へいせい ねん ど していしょうがいふくし じぎょうじょ いどうし えん じぎょうじょ
 の空き情報をホームページ上で検索することができるようにしました。 あ じょうほう じょう けんさく
 愛称：元気サーチ あいしょう げん き

分野 8 スポーツ・文化 ぶん や ぶん か

◆ 障がい者スポーツ大会の開催 しょう しゃ たいかい かいさい

障がいのある方がスポーツを通じて、体力の向上や自立更生 しょう かの たつ たいりよく こうじょう じりつこうせい

への意欲を高め、市民の理解促進を図ることを目的として開催。

大会参加者：1,650人

● 4 第2期障がい福祉計画における数値目標・サービス見込量の進捗状況 ●

(1) 訪問系・居住系・相談サービス

サービス種別		単位	21年度	22年度
訪問系	居宅介護	利用人数	2,247	2,511
		時間/月	50,041	52,614
	重度訪問介護	利用人数	224	243
		時間/月	47,404	53,165
	重度障害者等包括支援	利用人数	0	0
		時間/月	0	0
	行動援護	人数	252	293
		時間/月	4,469	5,300
居住系	共同生活介護 共同生活援助	人/月	1,339	1,541
	施設入所支援	人/月	876	1,184
	旧体系利用	人/月	1,436	1,129
相談	サービス利用計画作成	人	234	374
		人/月	32	28

(2) 日中活動系サービス

サービス種別		単位	21年度	22年度
日中活動系	療養介護	利用人数	15	14
	生活介護	人数	2,040	2,633
		人日/月	37,965	49,813
	自立訓練 (機能訓練)	利用人数	9	7
		人日/月	178	135
	自立訓練 (生活訓練)	利用人数	126	99
		人日/月	2,361	1,808
	就労移行支援	利用人数	338	354
		人日/月	6,713	6,760
	就労継続支援 (A型)	利用人数	419	700
		人日/月	8,108	12,832
	就労継続支援 (B型)	利用人数	1,605	2,083
		人日/月	28,400	36,862
	短期入所	利用人数	430	486
		人日/月	3,627	3,843
旧体系利用	人/月	786	567	

ちいきせいかつしえんじぎょう ひつすじぎょう
(3) 地域生活支援事業 (必須事業)

	たんい 単位	ねんど 21年度	ねんど 22年度
そうだんしえんじぎょう 相談支援事業			
そうだんしえんじぎょう 相談支援事業			
しょう しゃそうだんしえんじぎょう 障がい者相談支援事業	かしょうすう 箇所数	15	16
しょう じとうりょういくしえんじぎょう 障がい児等療育支援事業	かしょうすう 箇所数	15	6
ちいきじりつしえんきょうぎかい 地域自立支援協議会	かしょうすう 箇所数	1	1
じゅうたくにゆうきょとうしえんじぎょう 住宅入居等支援事業	かしょうすう 箇所数	16	17
せいねんこうけんせいどりようしえんじぎょう 成年後見制度利用支援事業	かしょうすう 箇所数	1	1
しえんじぎょう コミュニケーション支援事業			
しゅわつうやくしゃはけんじぎょう 手話通訳者派遣事業	りようにんずう 利用人数	446	485
	の にんずう 延べ人数	5,360	5,640
しゅわつうやくちじじぎょう 手話通訳設置事業	かしょうすう 箇所数	1	1
	つうやくしゃすう 通訳者数	71	66
ようやくひつきほうしんはけんじぎょう 要約筆記奉仕員派遣事業	りようにんずう 利用人数	78	92
	の にんずう 延べ人数	815	871
にちじょうせいかつようぐきゅうふじぎょう 日常生活用具給付事業			
かいご くんれんしえんようぐ 介護・訓練支援用具	きゅうふけんすう 給付件数	119	124
じりつせいかつしえんようぐ 自立生活支援用具	きゅうふけんすう 給付件数	679	765
ざいたくりようごとうしえんようぐ 在宅療護等支援用具	きゅうふけんすう 給付件数	275	295
じょうほう いしそつうしえんようぐ 情報・意思疎通支援用具	きゅうふけんすう 給付件数	310	363
はいせつかんりしえんようぐ 排泄管理支援用具	きゅうふけんすう 給付件数	26,824	27,710
きょたくせいかつどうさほじょようぐ 居宅生活動作補助用具	きゅうふけんすう 給付件数	89	102

	たんい 単位	ねんど 21年度	ねんど 22年度
いどうしえん 移動支援			
こべつしえんがた 個別支援型	かしょすう 箇所数	324	347
	にんずう 人数	3,126	3,299
	のじかんすう 延べ時間数	405,135	413,020
しゃりょういそうがた 車両移送型	のにんずう 延べ人数	6,555	7,277
ちいきかつどうしえん 地域活動支援センター			
きそてきじぎょう 基礎的事業	かしょすう 箇所数	69	72
	りょうにんずう 利用人数	905	870
きのうきょうかじぎょう 機能強化事業	かしょすう 箇所数	63	62

(4) ちいきせいかつしえんじぎょう にんいじぎょう
(4) 地域生活支援事業 (任意事業)

	たんい 単位	ねんど 21年度	ねんど 22年度
ふくし 福祉ホーム	ていいん 定員	45	45
しんたいしょうがいしゃにゆうよく 身体障害者入浴サービス事業	りょうにんずう 利用人数	131	103
	の にんずう 延べ人数	4,112	4,063
きゅうしんたいしょうがいしゃじりつしえんじぎょうりようしゃしえんじぎょう 旧身体障害者自立支援事業利用者支援事業 (H19までは、身体障害者自立支援事業)	りょうにんずう 利用人数	6	6
こうせいくんれんひ しせつにゆうしよしゅうしよくしたくきんきゅうふ じぎょう 更生訓練費・施設入所者就職支度金給付事業	しきゅうしゃすう 支給者数	32	30
せいにかつしえんじぎょう 生活支援事業			
せいにかつくんれんとう じぎょう 生活訓練等事業			
ちようかくしやう しゃしゃかいせいにかつきやうしつかいさいじぎょう 聴覚障がい者社会生活教室開催事業	の にんずう 延べ人数	874	1,056
しゃかいてきおおくんれん じぎょう オストメイト社会適応訓練事業	の にんずう 延べ人数	293	213
おんせい き のうくんれん じぎょう 音声機能訓練事業	の にんずう 延べ人数	677	916
てんじそくじじょうほう じぎょう 点字即時情報ネットワーク事業	の にんずう 延べ人数	4,934	4,956
ちゅうと してつめいしゃしゃかいてきおおくんれん じぎょう 中途失明者社会適応訓練事業	の にんずう 延べ人数	1,340	1,109
にっちゅういちじ しえんじぎょう 日中一時支援事業	りょうにんずう 利用人数	835	780
	の にんずう 延べ人数	18,484	19,348

	たん い 単位	ねん ど 21 年度	ねん ど 22 年度
しゃかいさん か そくしん じ ぎょう 社会参加促進事業			
スポーツ・レクリエーション教室開催等事業	の にんずう 延べ人数	1,012	877
てん じ こえ こうほうとうはっこう じ ぎょう 点字・声の広報等発行事業	り ようにんずう 利用人数	860	860
ほう し いんようせいけんしゅう じ ぎょう 奉仕員養成研修事業			
しゅ わ ほう し いんようせい じ ぎょう 手話奉仕員養成事業	にんずう 人数	287	278
ようやくひつ き ほう し いんようせい じ ぎょう 要約筆記奉仕員養成事業	にんずう 人数	28	24
てんやくろうどくほう し いんようせい じ ぎょう 点訳朗読奉仕員養成事業	の にんずう 延べ人数	1,460	4,097
じ どうしゃうんてんめんきよしゅとく かいぞう ほじょ じ ぎょう 自動車運転免許取得・改造補助事業	り ようにんずう 利用人数	61	67
た しゃかいさん か そくしん じ ぎょう その他社会参加促進事業			
しょう しゃ そうだんうんえい じ ぎょう 障がい者あんしん相談運営事業	か しょうすう 箇所数	1	1
しょう しゃ うんえい じ ぎょう 障がい者ITサポートセンター運営事業	か しょうすう 箇所数	1	1
ざいたくじゅう ど しょう しゃ じ 在宅重度障がい者(児)	り ようにんずう 利用人数	1,071	1,383
かみ じ ぎょう 紙おむつサービス事業	の にんずう 延べ人数	15,419	16,044
しんたいしょうがいしゃふくし でん わ せつ ち じ ぎょう 身体障害者福祉電話設置事業	り ようにんずう 利用人数	87	77
もう しゃつやぐ はけん じ ぎょう 盲ろう者通訳・ガイドヘルパー派遣事業	り ようにんずう 利用人数	7	10
はったつしょうがいしゃ し えん うんえい じ ぎょう 発達障害者支援センター運営事業	か しょうすう 箇所数	1	1